



埼玉県のマスコット
「コバトン」

やまのいも（大和芋）の病害虫について

令和 7 年 8 月 6 日
大里農林振興センター

1 病気

○ 葉渋病

葉身でははじめ不規則な形の黄色がかった退緑斑が生じ、やがて拡大して葉脈に囲まれた多角形となる。その中央部に黄褐色の小粒点を散生し、これが破れて白色の粉を生じる。白粉は茎や葉柄でも生じ、病勢の激しいときには新梢が徒長し、奇形化して糸葉状となったり、萎縮して黄化したりする。

本病は8月中旬から収穫期にかけて発生が見られる。降雨が続く場合はより注意が必要となる。病原菌の潜伏期間は長いため、まん延を防ぐには発生前から予防的に防除を行う。



葉渋病 白粉の噴出と多角形の病斑
(写真元：HP埼玉の農作物
病害虫写真集)



カンザワハダニ 成虫(体長約0.4mm)
と若虫(写真元：HP埼玉の農作物
病害虫写真集)

2 害虫

(1) ハダニ類

主にカンザワハダニが発生する。

葉の表面には周縁不明瞭なモザイク状の黄変が生じ、葉の裏面では葉脈が褐変するとともに葉脈間は白変する。被害葉が増えると株全体が生育不良となる。

本虫は高温乾燥を好む。水が苦手なため、雨の当たらない葉裏に生息していることから、薬剤を散布しても薬液が届きにくい。早期防除を心掛ける。



葉裏に寄生したカンザワハダニ
(写真元：HP埼玉の農作物
病害虫写真集)

(2) ハスモンヨトウ

本虫は6月ごろから幼虫の食害が見られるようになり、8～10月にかけて爆発的に増殖する。極めて広食性で多くの農作物に被害をも



ハスモンヨトウ卵塊
(左上 直径8mm)
と中齢幼虫
(右下 体長約7mm)
(写真元：HP埼玉の農作物
病害虫写真集)

たらず。

葉裏に産み付けられた卵塊（数百個の卵）からふ化した幼虫は集団で葉表面をなめ取り、表皮のみが残る。幼虫は成長に伴って移動性や食害量が増し、加えて薬剤が効きにくくなるため、早期発見・早期防除を心掛ける。

3 登録農薬一覧（抜粋）（2025年7月23日登録反映）

作用機分類		農薬通称	適用病害虫			使用時期	希釈倍数	散布液量・使用量	使用方法	この使用方法における本剤の使用回数	予防・治療剤の区別	その他効果のある病害虫
殺菌剤 FRAC コード	殺虫剤 IRAC コード		葉 病	ハ ダ ニ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ							
1		トップジンM水和剤	○			収穫7日前まで	800倍	100～300L/10a	散布	5回以内	治療	炭疽病
1		ベンレート水和剤	○			収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	散布	3回以内	治療	炭疽病
3		オンリーワンフロアブル	○			収穫7日前まで	1000倍	100～300L/10a	散布	3回以内	治療	炭疽病
11		アミスター20フロアブル	○			収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	散布	3回以内	治療	炭疽病
11		ストロビーフロアブル	○			収穫7日前まで	2000～3000倍	100～300L/10a	散布	3回以内	治療	炭疽病
11		メジャーフロアブル	○			収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	散布	3回以内	治療	炭疽病
29		フロンサイド水和剤	○			収穫7日前まで	2000倍	100～300L/10a	散布	4回以内	予防	
39	21A	ハチハチ乳剤	○			収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	散布	2回以内	予防	アブラムシ類、ナガイモコガ
M01		Zボルドー	○			-	500倍	100～300L/10a	散布	-	予防	炭疽病
M03		ジマンダイセン水和剤	○			収穫21日前まで	400～600倍	100～300L/10a	散布	4回以内	予防	炭疽病
M05		ダコニール1000	○			収穫30日前まで	1000倍	100～300L/10a	散布	6回以内	予防	炭疽病、つる枯病
M07		ベルグート水和剤	○			収穫7日前まで	1000～2000倍	100～300L/10a	散布	5回以内	治療	
	6	コロマイト乳剤		○		収穫7日前まで	1000倍	100～500L/10a	散布	2回以内	-	
	13	コテツフロアブル		※1		収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	散布	2回以内	-	ナガイモコガ
	20B	カネマイトフロアブル		○		収穫3日前まで	1000～1500倍	150～300L/10a	散布	1回	-	
	20D	マイトコーネフロアブル		○		収穫3日前まで	1000倍	100～300L/10a	散布	1回	-	
	25A	ダニサラバフロアブル		○		収穫前日まで	1000倍	100～350L/10a	散布	2回以内	-	
	未	ムシラップ		※2		収穫前日まで	500倍	100～300L/10a	散布	-	-	アブラムシ類
	3A	トレボン乳剤		○		収穫14日前まで	1000倍	100～300L/10a	散布	3回以内	-	アブラムシ類、ヤマノイモイモコガ
	11A	ゼンターリ顆粒水和剤		※3		発生初期位、収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	散布	-	-	
	11A	デルフィン顆粒水和剤		○		発生初期位、収穫前日まで	1000倍	100～300L/10a	散布	-	-	オオタバコガ、シロイチモジヨトウ
	18	マトリックフロアブル		○		収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	散布	3回以内	-	
	28	フェニックス顆粒水和剤		○		収穫前日まで	2000～4000倍	100～300L/10a	散布	2回以内	-	ナガイモコガ
	28	プレバゾンフロアブル5		○		収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	散布	3回以内	-	ナガイモコガ
	28	ベネビアOD		○		収穫7日前まで	4000倍	100～300L/10a	散布	3回以内	-	アブラムシ類、コガネムシ類、ナガイモコガ
	30	グレーシア乳剤		○		収穫前日まで	2000倍	100～300L/10a	散布	2回以内	-	

※1：カンザワハダニ で登録あり ※2：野菜類 で登録あり

※3：いも類 で登録あり

○必ず使用農薬のラベルを確認し、**規定の散布液量**

・**希釈倍数**で使用してください。

○同じ薬剤・同じ RAC コードの薬剤の**連用は避け**、
飛散に十分注意して使用してください。

○栽培記録簿等の農薬チェック表を事前によく見て、
使用回数等をよく確認しましょう！